

中国夫婦別姓までの流れと家族内呼称

河崎みゆき

本発表では、中国で夫婦別姓が法律で規定されるまでの簡単な流れと改定の歴史、中国の家族内呼称の特徴と夫婦間の呼称について報告する。

夫婦別姓までのながれ

中国では夫婦別姓であることは日本でも広く知られているが、これは長い歴史を持つ習慣ではない。封建家父長制度の下の中国では、妻の姓は夫の姓に重ねた「夫姓+本姓」（例、王張氏）などが用いられていた。初めて法律に婚姻の規定による夫婦の姓の問題が取り上げられたのは、1929年5月に南京国民政府が交付した『民法』であり、「冠夫制（妻の姓の上に夫の姓を加える制度）」が定められた。この段階では夫婦同姓であった。その20年後1949年に新中国が成立し、時代は新しい法律を求め、翌年1950年5月1日『中華人民共和国婚姻法』が制定され、第11条に「夫妻有各用自己姓名的权利（夫妻はそれぞれ自己の姓名を用いる権利を有する）」と明記され、これにより姓名の権利の上で完全に平等になった。その成立には新中国の改革には女性の力が不可欠であるという思想があったとされる。社会の発展に伴い、この婚姻法は30年後の1981年に改定され、「第十六条 子女可以随父姓、也可以随母姓。（子女は、父の姓に従うことができ、また母の姓に従うこともできる）」と明記されるようになった。2001年にも離婚や家族に関して時代に合わせた改定が行われている。

家庭内呼称

血縁や婚姻によってつながる人間関係を表す語彙を親族語彙といい、直接

呼びかける「お母さん」「お兄さん」などの語を「親族呼称」と言い、その人について言及するときの呼び方、例えば「母」「兄」などの語彙を「親族名称」と言う。親族語彙は方言や時代、社会階級によってもかなり異なっているが、中国語の親族呼称は日本語よりはるかに複雑である。おじいさん、叔父叔母、いここに至るまで、父方であるか母方であるかまた、兄弟姉妹の順番によっても呼称が違っている。たとえば、父方の、父より年上のおじさんは「伯伯 bóbó」であり、年下のおじさんは叔叔 shū shū である。いとも父方のおじさんのこどもであるいとは「堂哥 táng gē」のように「堂」の接辞がつく。これで姓が同じであることを表し、そのほかのいとは「表姐 biǎojiě」のように「表」をつけて区別する。親族名称も同様に複雑である。それは伝統的な中国社会が、血縁を大事にし、その長幼の序を重んじてきたためである。正しく呼ぶことが中国の礼の基本であり、挨拶にも用いられる。また同じ姓のとの結婚を禁じた「不姓不婚」は前漢に成立した『礼記』にすでに記載があり、漢民族においては、姓は血縁関係の象徴であり、この血縁関係を中心とする家族制度によって、父系の姓が子孫に継承されてきたのである。

夫婦間の呼称

日本において家庭内のジェンダーの問題として取り上げられる夫婦間の呼称（面称）について述べる。2012年に中国北方都市（ハルビン、北京、長春など10都市）110家庭208名に対して行われたアンケート調査によれば、夫婦間の呼称は、結婚前、結婚初期、子どもが生まれてから、年を取ってからという時間の経過や立場の変化、また2人だけの時、家族の前、他の人の前といった場面の違い、また気分の違いでも呼び名が変わることが分かっている。呼称の種類としては、1. フルネーム、2. 名前、3. 哎（ねえ）、4. なし、5. 老公（だんなさん、あなた）、6. 老婆（おくさん）、7. 老○（老は尊敬と親しみを表す接辞）、8. ニックネーム、9. 媳婦（よめさん）、10. 小名（結婚前、子どものころの呼び名・愛称）、11. 我说（あのね）、12. 亲爱的（ダーリン）、13. 其他、14. BB/CC、15. （こどもの名前）+他爸、16. （こどもの名前+他妈、17. Honey、18. 老伴（つれあい）、19. 大B/C、

20. C の順であった (BC は二文字の名前の最初の字 B と次の字 C)。

ここで興味深いのは老公 (Husband)、老婆 (wife) 媳妇 (son's wife) という親族名称が、夫婦間の呼称としても使われるということである。フルネームで呼ぶのは、中国語の音節とも密接に関係しており、父母の前ではフルネームまたは、結婚前の愛称で呼ぶ率が高いことは、伝統的な親への配慮もはたらいっていると言う。これらは発表者自身が中国生活で観察したことや、中国の現代テレビドラマなどでも観察されるものとはほぼ同じである。

一方で、親族呼称は、年齢や方言の要素も大きく、この調査では現れていないハルピンにおける他人の前での「姓+老师」という呼称の例 (我们孙老师うちの孫先生) や、「老頭ラオトオル (うちのじいさん)」といううだけた言い方や、「我愛人ウオアイレン (わたしの愛する人)」という時代を感じさせる呼称、娘を「女兒 (ニュアル) と呼ばずに「姑娘クーニャン」という武漢方言など、豊富な呼び名の使用がされていることを発表者自身、中国生活で耳にしたことも事実である。

普通話 (プートンホア) と呼ばれる共通語が普及したいまでも家庭内ではかなり方言の要素が残っているが、1979年に始まった一人っ子政策から40年近くたち、複雑な親戚関係が成立しなくなり、親族呼称も使用されなくなったものも現れてきている。

[参考文献]

- 巫昌禎 (2001) 「中国婚姻法50年——回顧と展望」『中国21』愛知大学現代中国学会。
顧令儀 (2014) 「親族語彙」『日本語と中国語』朝倉書店。
馮莉 (2012) 「北方城市夫妻面称調査研究報告」『中国社会言語学』商務印書館。
羅芸雪、徐亮等 (2018) 『面向對外教学的称谓語研究』四川大学出版社。
王新宇 (2005) 「民国時期婚姻法近代化研究」中国政法大学博士論文。
汪玢玲 (2001) 『中国婚姻史』上海人民出版社。

(かわさき みゆき・國學院大学非常勤講師)